

よいことの ために 手を取りあおう

週報 Weekly Report 2025-2026

事務所 三重県伊賀市西明寺 2756-104 ヒルホテルサンピア伊賀内
TEL 0595-24-4650 FAX 0595-24-4656
例 会 毎週木曜日 12:30 第3週例会 18:00 点鐘
ヒルホテルサンピア伊賀 TEL 0595-24-7000



■URL : <http://www.ict.ne.jp/~u-eastrc/>
■e-mail : u-eastrc@ict.ne.jp

本日の例会 第2093回 2025年12月16日（火）

開会点鐘 18:30
国歌斉唱 “君が代”
Rソング “四つのテスト”
ゲスト・ビジター紹介
会長の時間
幹事報告・委員会報告・同好会報告・
出席報告・ニコニコボックス
乾杯・懇親会

閉会点鐘 20:00

本日の行事 上野RC合同例会



前回の例会 第2092回 2025年12月11日（木）

開会点鐘 12:30
Rソング “奉仕の理想”
歌唱指導 “見上げてごらん夜の星を”
ゲスト・ビジター紹介
ゲスト 伊賀市社会福祉協議会平井会長様、
ビジター 尼崎西RC 浦上博隆様、静岡北RC 戸崎博隆様
出席報告76.67%
会長の時間・幹事報告・委員会報告・同好会報告・
ロータリーの友読みどころ・ニコニコボックス
閉会点鐘 13:30
本日の行事 「介護保険の現状と今後」
伊賀市社会福祉協議会会長 平井俊圭様

会長の時間 木津会長

ビジターの参加に触れ、ロータリーのネットワークと絆の強さについて言及した。
ゲストの平井会長に対し、創立45周年講演での後援の感謝を述べ、後ほどの卓話への期待を伝えた。
個人的なこの一年の出来事として、高市早苗氏の総理総裁就任と阪神タイガースのリーグ優勝を挙げた。
クラブの年度（7月始まり）における前半の活動を振り返った。
9月の家族親睦会と、先日の記念講演会が大きな出来事であったと述べた。
普段のホーム例会が半年間無事に開催できたことについて、会員への感謝を表明した。
次年度の予定者が決定し、来年1月から6月は本年度と次年度の活動が重なり多忙になる見込みで
あると述べた。最後に、一年間およびこの半期に対する会員への感謝を述べて挨拶を締めくくった。



幹事報告 宮岡幹事

次週12月16
日（火）の例会が年内最後の例会となる。
合同例会のため、時間が18時30分からに変更される。
次週の例会は18時30分開始のため、時間を間違えないよう出席すること。



次年度役員人事発表 鈴木孝治次年度会長エレクト

先週の例会後、次年度の理事メンバーと臨時の理事会を招集し、以下の事項が承認された。
①次年度会場監督に宮岡秀樹君が選任された。
②次年度副会場監督に山本一雄君、副幹事に乾諭君が選任された。
③理事2名として、中西理晃君が親睦委員長に、樋口優子君が奉仕財団運営部門長に選任された。
④慣例により、副会長の中村浩君が会員組織強化クラブ運営部門長に指名された。



ニコニコボックス報告 樋口会員

戸崎様：本日はお邪魔をいたします。静岡から参りました。よろしくお願いします
浦上様：初めてお世話になります。よろしくお願いいたします。
木津会長：今年最後のホーム例会です。一年間お世話になりました。
宮岡幹事：伊賀市社会福祉協議会会長平井様、本日の卓話よろしくお願いいたします。
中井会員（欠席）より、平井俊圭先生をお迎えして。欠席のお詫びとして。
長谷川会員：ちょっといいことと、寂しいことがありました。
神戸会員：ニコニコボックスに協力します。平井様をお迎えして。
子日会員：平井さん、よろしくお願いいたします。
栗本会員：伊賀市社会福祉協議会会長平井俊圭様、本日はよろしくお願いいたします。
山本会員、鈴木会員、福永会員、平井会員、中村会員：
伊賀市社会福祉協議会会長平井様、本日の卓話よろしくお願いいたします。
西会員：早退のお詫びと誕生祝を自祝して。
岡田会員：伊賀市社会福祉協議会平井会長「僕は楽しみにしております」
三谷会員：ニコニコボックスに協力します。
山森会員：平井様、ようこそいらっしゃいました。



米山記念奨学金特別寄付の案内

会議終了後、事務局にて寄付を受け付ける。

ポリオ根絶チャリティコンサートの案内

2026年に名古屋で開催されるコンサートへの参加を呼びかけ。
クラブから5名の参加を目指している。

「ロータリーの友」読みどころ 福永会員

特集記事「参加してよかったポリオ根絶活動」

パキスタンでのワクチン投与活動のエピソードが紹介された。
現地地の劣悪な衛生環境や、ワクチンへの誤解を持つ保護者がいる現実が報告された。
太陽光発電による浄水装置の設置など、水と衛生の支援活動も行われている。
「2滴のワクチンが未来をつなぐ」という言葉と共に、活動の意義が強調された。



「介護保険の現状と今後」 伊賀市社会福祉協議会会長 平井俊圭様

- ①日本は現在、二つの大きな「崖」に直面していると指摘した。
2025年問題:団塊世代が75歳を超え、介護ニーズがピークに達する問題。
75歳は介護が必要な状態になる人が最も増える年齢である。
2040年問題:団塊ジュニア世代が高齢化し労働市場から引退することで、
資金があっても介護の担い手がいなくなる問題。伊賀市は全国平均を上回る
高齢化率にあり、高齢者人口自体も減少に転じている。
伊賀市の高齢化率は33.9%であり、全国平均の29.1%を上回っている。
これは市民の3人に1人が65歳以上であることを意味する。将来推計によると、
全国的には高齢者人口はまだ増加を続けるが、伊賀市では高齢者人口そのものが
既に減少し始めている。支える側の人口が減少する中で、いかに生活基盤を維持
していくかが伊賀市の大きなテーマとなっている。
- ②介護保険制度の被保険者区分と保険料の徴収方法が説明された。
介護保険の被保険者は年齢によって2種類に区分される。第1号被保険者:65歳以上の人。
第2号被保険者:40歳から65歳までの人。この区分は、介護が必要になる原因の違いと、
保険料の徴収方法の違いに基づいている。第1号被保険者（主に年金受給者）は、年金
から天引きされる。第2号被保険者は、医療保険料に上乗せして天引きされる。いずれも
天引き方式であり、保険料の取りはぐれがない仕組みになっている。
- ③介護保険サービスの利用申請からケアプラン作成までの流れが解説された。
介護保険サービスを利用するには、まず市町村への申請が必要となる。申請は本人、家族、
または居宅介護支援事業所（ケアマネジャーの事務所）が代行できる。申請後、市町村の
訪問調査員が自宅や病院を訪れ、介護の必要性を判断するための調査を行う。調査結果と
主治医意見書などを基に、保健・医療・福祉の専門家が審査判定を行う。コンピュータが
一次判定を行い、専門家がその妥当性を審査する。審査判定後、市から要介護度が通知され、
ケアマネジャーと共に個別の介護計画（ケアプラン）を作成する。ケアプランは、医療保険
における医師の処方箋に相当するもので、これに基づいて各種サービスが提供される。
- ④介護保険で利用できるサービスは「居宅サービス」「施設サービス」「地域密着型サービス」の3種類に大別される。
居宅サービス（自宅で利用）:ホームヘルパー派遣（訪問介護）・訪問看護・通所介護（デイサービス）・短期入所生活介
護（ショートステイ）・福祉用具の貸与・購入費補助（車椅子、入浴器具など）
施設サービス（施設に入所して利用）:特別養護老人ホーム（特養）・介護老人保健施設（老健）・介護医療院（伊賀市内
には存在しない）
- ⑤地域に根差した小規模な「地域密着型サービス」の種類と特徴が説明された。
地域密着型サービスは、住み慣れた地域で生活を継続しながら利用できる小規模なサービスである。定期巡回・随時対応
型訪問介護看護:ヘルパーや看護師が定期的に巡回し、夜間の排泄介助などにも対応する。小規模多機能型居宅介護:デイ
サービス、ヘルパー、ショートステイを一つの小規模施設で一体的に提供する。伊賀市内では伊賀社協の「白富士の里」
が該当する。看護小規模多機能型居宅介護（看多機）:小規模多機能型に看護師が常駐し、医療ニーズの高い人も利用で
きる。
認知症対応型共同生活介護（グループホーム）:**認知症の人が地域で暮らし続けるための施設。
地域密着型通所介護:小規模なデイサービス。
上記の他に、比較的元気な方向けのケアハウスもあり、入居者がヘルパーを必要とする場合は訪問介護を利用できる。
- ⑥要介護認定の段階と、特に「要支援」認定者向けの介護予防サービスが解説された。
要介護認定は、介護の手に応じて「要支援1・2」と「要介護1～5」の合計7段階に区分される。
要支援:放置すると要介護状態になる可能性があるため、介護予防が中心となる。要介護:既に介護が必要な状態。
要支援1・2と認定された人は、介護予防を目的としたサービスを利用できる。
介護予防サービス:介護予防訪問介護、介護予防訪問看護、介護予防訪問リハビリテーションなど、「介護予防」が名称に
付く。
居宅療養管理指導:医師や歯科医師、薬剤師などが計画的に自宅を訪問し、療養上の管理や指導を行う。これは体調不良時
に依頼する「往診」とは異なる。
地域密着型介護予防サービス:グループホーム（要支援2以上）などが利用可能。
伊賀市独自の取り組みとして「介護予防・生活支援サービス事業」も存在する。訪問型サービス（家事支援）、通所型
サービス（デイサービス）、移動支援（ゴミ出し等）、介護予防教室やサロン活動への参加奨励などがある。



- ⑦介護保険制度では対応できない「制度の狭間」の問題と、それを埋める社会福祉協議会の役割が説明された。
介護保険は適用範囲が定められており、対象外のサービスが存在する。対象外の例：庭の草引き、大掃除、電球交換、ペットの世話、長時間の話し相手。交通手段が乏しい地域での移動支援も、介護保険での対応は困難である。このような制度の狭間にある課題を埋めることが、社会福祉協議会の役割である。活動資金は、伊賀市からの補助金のほか、ロータリークラブ会員や投資家からの寄付によって支えられている。寄付の用途には、地域の課題解決のための財源と、コロナ禍で生活困窮者が急増した際に設置されたキッチンのような非常時に備えるための財源の2種類がある。
社会福祉協議会の活動への支援を要望する。
- ⑧ある詩の紹介を通じて、高齢者の内面と尊厳を理解することの重要性が語られた。
介護が必要な時、入浴や食事といった行為に目が行きがちだが、本人の思いは他にある場合がある。
ある認知症で一人暮らしの女性が亡くなった後、病室から見つけた手記（詩）が看護雑誌に掲載され、注意喚起のきっかけとなった。この詩は、看護師から見た高齢女性の姿と、その女性自身の内面的な人生の物語を対比させている。

老人の証言
何がわかっているのです看護婦さん、あなたは何がわかっているの？
私を見つめているとき、あなたは考えているの？
さほど賢くもない年老いた気難しい女。
ぼんやりした目付きをして行動も緩慢で、食べ物をぼろぼろこぼし、返事もしない。
「努力して、やってみて欲しいの！」と大きな声であなたが言っても、そんな事を少しも気に掛けていない様子で、靴下や靴はいつも無くしたまま。
何も逆らわず、何もしようとするわけでもなく、長い一日を入浴と食事で埋めている。
そんなふうにあなたには思え、そんなふうにあなたは私の事を考えているの？
もしそうなら看護婦さん、目を開いて私を見つめてごらん。
あなたに言われるままに、あなたの意志に従って食事をし、私がじっと静かにここに座っている間に、私のことを話しましょう。
私が10歳の子どもの時、父や母と一緒に暮らし、兄弟姉妹は互いに愛し合い、16歳の若い少女の時には浮き浮きして、もうすぐ愛する人に巡り会えることを夢見、やがて20歳になろうとする時花嫁になり、心は躍り、永遠に守ると約束した誓いの言葉。25歳で子どもが生まれ、子どものためにと安全で幸福な家庭を築き、30歳の女性になり、子どもの成長も早く、永遠に続く絆で互いに結ばれ、40歳の時、若い息子たちは成長し、皆、巣立つ日も近く、でも、夫は私の側に留まり、私が悲しまないよう気を配る。50歳の時、再び私の膝のうえで幼子が遊び戯れ、もう一度、私の愛する子どもたちと私は理解し合う。
夫が死に、暗い日々が続き、未来を見詰め、恐怖に身震いする。若い者たちは、皆、子育てに忙しく、私は昔を、愛し合った日々を思う。
私は年老いた女。自然は残酷だ。老年が私を愚かに見せる。私の身体から、優雅さは打ち砕かれ、活気はなくなり、かつて熱く燃えた心も、今は石のよう。しかし、この古い身体の中に、若い少女はまだ住み続けている。
そして、今も、再び、心がときめく。
喜びの日々を、また苦しかった日を思い出し、私の人生を愛し続け、過ぎ去った日々を再びたどる。
永遠に続くものは何も無いという厳しい事実だけを残し、あまりにも短く、あまりにも早く過ぎ去った年月の事を思う。
さあ看護婦さん、あなたの目を開きなさい。
目を開いて私を見詰めて。
もっと側によって、気難しい老女ではなく、「私」を知って。

詩は「気難しい老女ではなく、私を知って」というメッセージで締めくくられ、外見だけではわからない個人の人生と尊厳を理解するよう訴えかけている。

介護が必要な人の人生を理解し共感する地域社会の構築と、ロータリークラブへの協力の呼びかけがなされた。
介護が必要になると、介護という行為そのものに目が奪われがちだが、介護を受ける本人には「私を知って」という深い思いと長い人生がある。介護が必要な人々の人生を共有し、共感できる地域社会であり続けたいという強い願いが表明された。
ロータリークラブの「生涯の奉仕」という理念に触れ、製造業などのハードウェアと、人々の善意というソフトウェアの両面から、誰もが安心して暮らせる伊賀市を共に創り上げていきたいという考えが示された。

『松本正博君 お見舞い記』

何かと気忙しく感じさせる師走の半ば、しばらく休会されている松本正博君をお見舞いに岡波病院に赴いた。夕方近くであったので、受付は閑散としていたがエレベーターで5階まで上るとナースステーション横の面会ホールには数人の人たちが歓談していたがほどなく、松本君がしっかりした足取りでやって来た。
椅子に座るなり、開口一番、「何とか無事に周年記念講演、済んだなあ～ なかなか、盛況やったようやな。」

副実行委員長として心配してくれていたのだと大変恐縮した。
「次年度の副会長、決まって良かったな。新年の第1例会は菅原神社でやるんやな。新年互礼会は15日か。」と、こちらが話を差し向けることもなくとも、クラブの状況をよくご存じのようであった。検査の結果と今後の経過次第ではあるが、体調が戻れば、1日でも早く例会に復帰したいとのことであった。気がつけば、今年もあと2週間余り・・・・・・。インフルエンザの蔓延もやや落ち着いたとはいえ、まだまだ安心できません。この先、空気はよりいっそう乾燥し寒さも益々厳しくなるものと思われます。会員の皆さま方、どうぞお身体ご自愛のほどを。

